

本日は南河内の山々で出会う「バッタの仲間」を中心に紹介します。

ススキ草原の広がる山頂付近でよく見かけるのは「ツマグロイナゴ」という種です。たくさんの個体が葉の上で休んでいたり、草本の茎にとまっていたりするのですが、中には気の毒な個体もいるのです...

写真 ・ ： ツマグロイナゴ

後脛節と翅の先端の黒色が目立つ、やや大きめの「バッタ」です。

「ツマグロイナゴモドキ」、「ツマグロバッタ」とも呼ばれています。

「バッタ」なのか「イナゴ」なのかよくわからない名前ですが、どちらのイメージに近いか？ と問われれば、「バッタ」でしょうね...

体長は4 cm強で、オスは明るい黄褐色で、メスは枯草色です。

山間部のやや湿った草原、ヨシ原などに生息しているようですが、ススキ草原の広がる山頂部付近には個体数も多いです。

写真 ： ツマグロイナゴのペア

雷鳴とどろくダイヤモンドトレール沿いで、交尾しているペアを見つけました。

真っ暗な林内でフラッシュ撮影をしましたが、の黄色い体色が茶色っぽく写っていますね...

写真 ・ ： ツマグロイナゴの受難 その(1)

「ナガコガネグモ」の網にかかって、ぐるぐる巻きにされてしまいました...

よく見ると2匹が捕まっています！ 体の大きさもやや違うところを見ると、交尾中のペアが何らかの危険にさらされて飛び立ったところにクモの巣が... という展開の末なののでしょうか？

写真 ・ ： ツマグロイナゴの受難 その(2)

草本のてっぺん付近で、このように黒ずんで固まったまま死んでいる個体に結構出会います。

よく見ると、体から白い「菌糸」のようなものが出ていますので、菌類に冒される病気にかかったのでしょうか？

そして、菌類に体を支配されて、胞子を遠くに飛ばせるように、高いところへ導かれたのかも知れません...

図鑑で調べてみますと「白きょう病」に罹患した個体かも知れません。

一種の「冬虫夏草」なのでしょうね。

写真 ： 冬虫夏草

これはバッタ類ではなく「蛾」のようですが、菌類に冒されて「冬虫夏草」の状態になっています。

ダイヤモンドトレール沿いで見つけました。

冬虫夏草： 現在では、昆虫などから生ずるキノコを総称した用語として使われています。

写真 : クルマバッタ

きれいな緑色で、濃茶色と白色に塗り分けられた翅を持つ大きなバッタで、
では 6 cmを越える個体も見られます。褐色型もいます。

トノサマバッタに似ていますが、平地にはあまりいないようで、丘陵地や山間部の
草地で見かけることが多いです。

写真 : ホソクビツユムシ

ある程度海拔の高いところの森林に生息している種です。

樹上性で主に落葉広葉樹の葉を食べているようです。

この写真も、ダイヤモンドトレール沿いの林縁部で撮影したものです。

緑と赤の組み合わせが美しいですね！



















